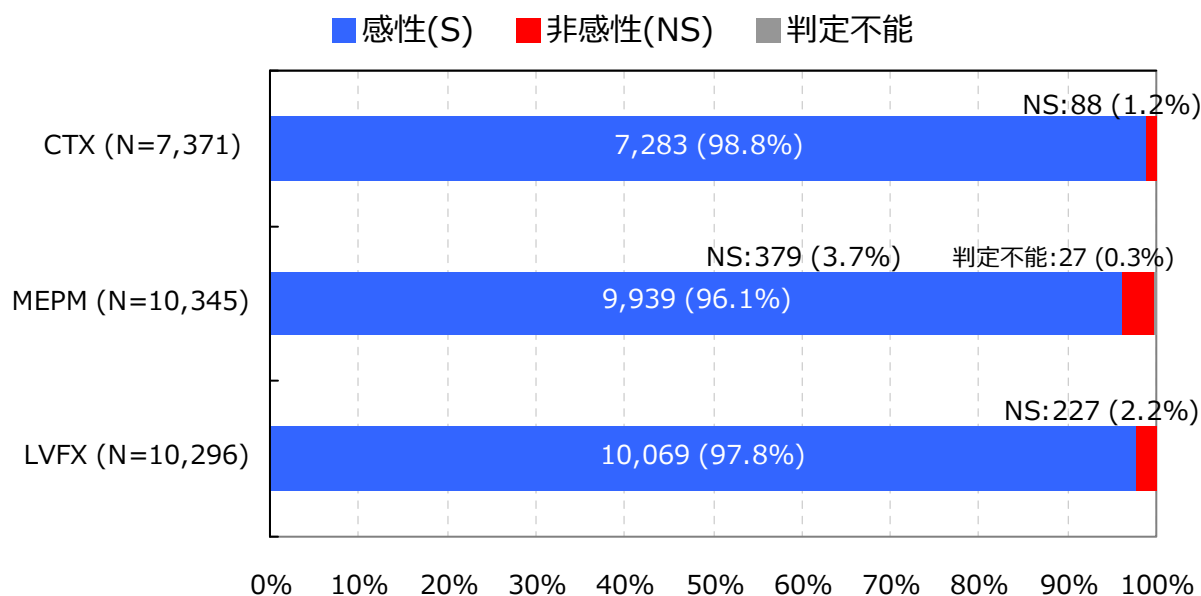
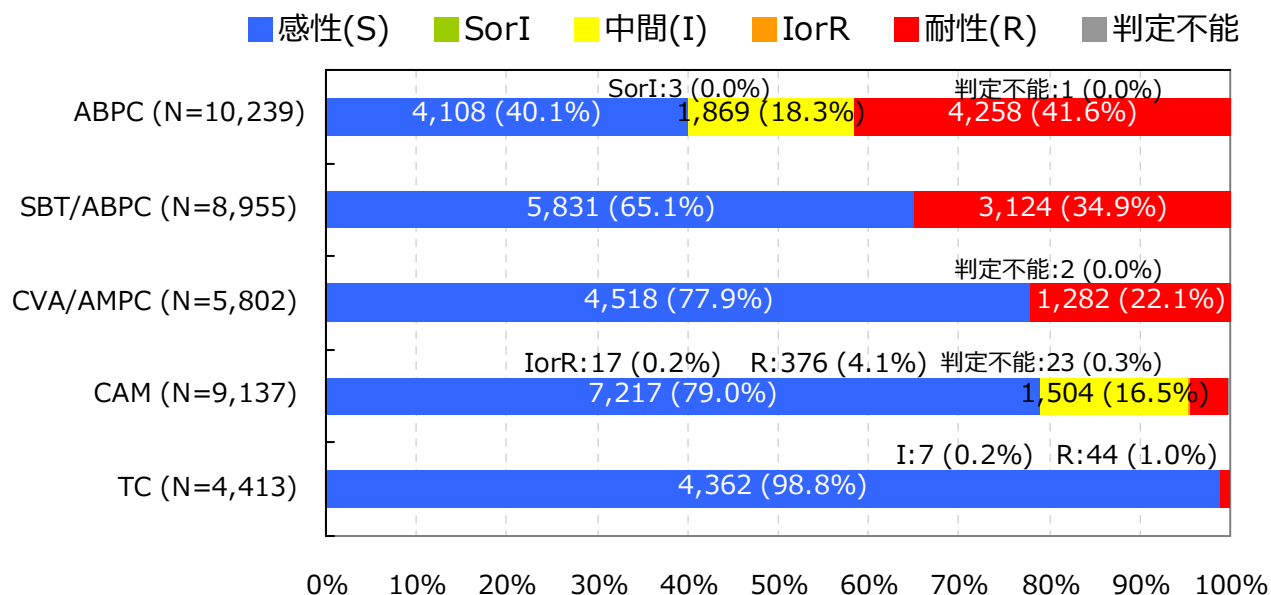


6. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生动向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

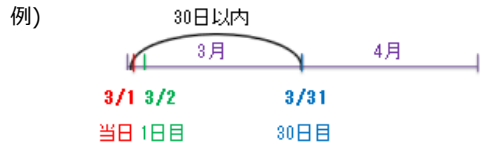
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

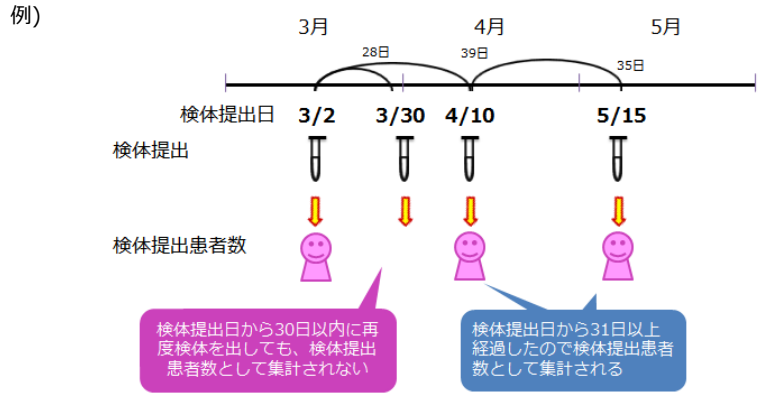
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



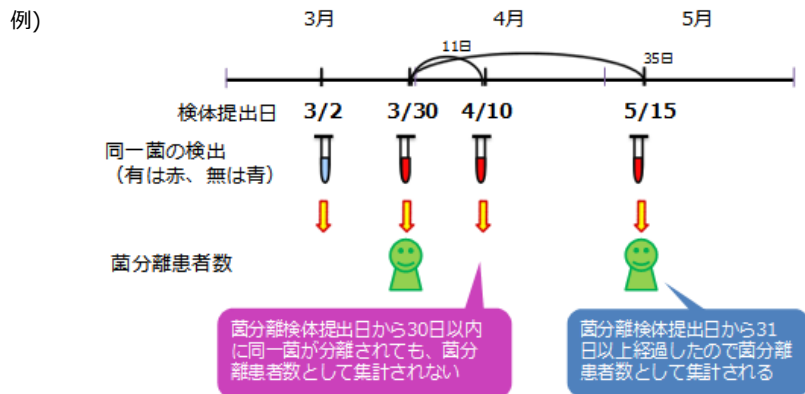
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



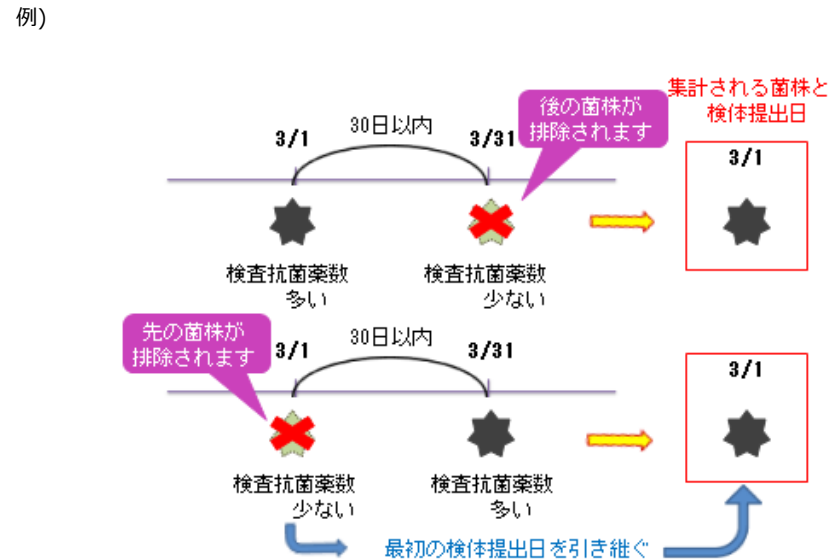
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

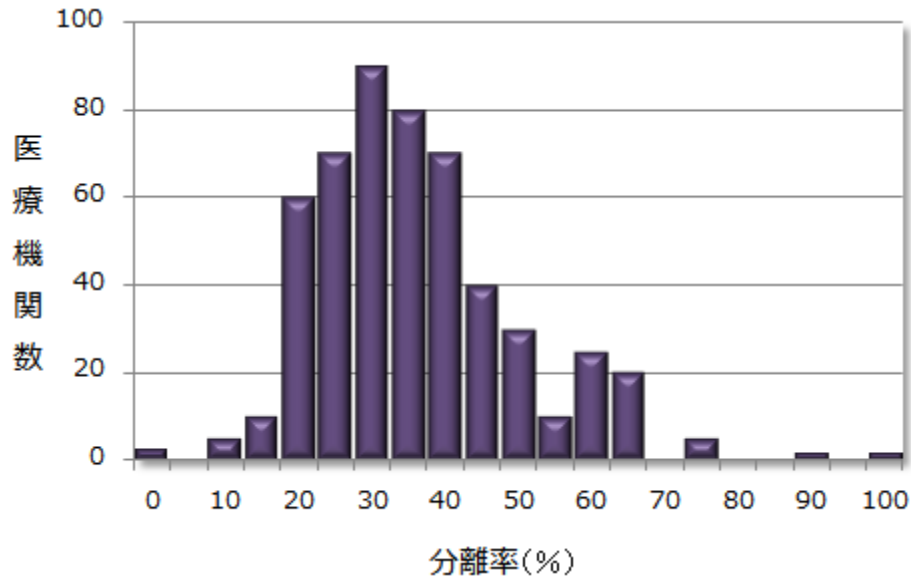
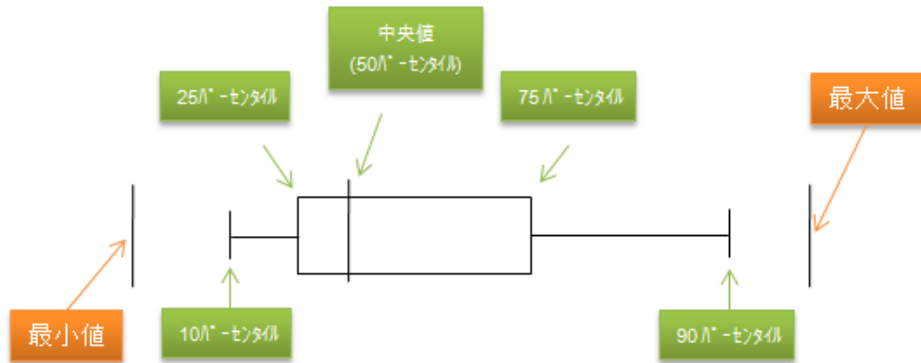
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

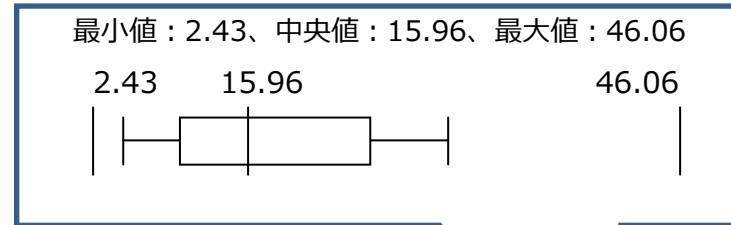
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図



		集計対象医療機関の分離率 (%)の分布	
2010年 *	2011		
1,069,216人	1,309,993人		
175,145人 (16.38%)	210,382人 (16.06%)	2.43	15.96 46.06
47,523人 (4.44%)	64,588人 (4.93%)	0.00	3.21 37.54